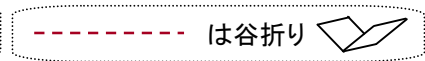
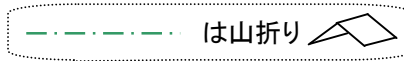


姉さん人形の作り方



髪の毛の長い姉さん人形、何体か作れば物語ができそう。
ここでは、15cm×15cmの折り紙で作ることとして説明しています。

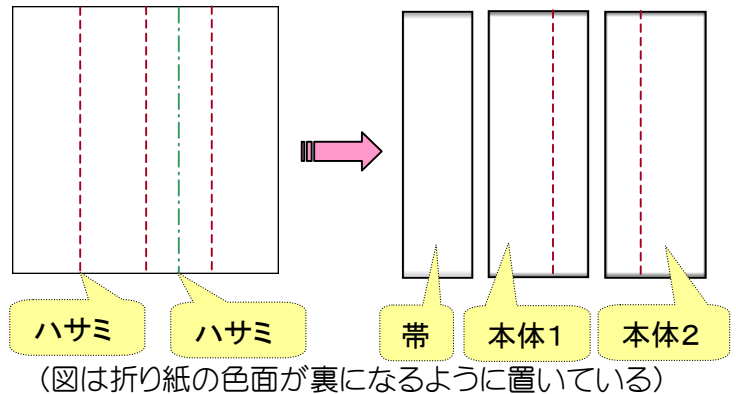


準備するもの

- 接着材=《 糊 ポンド 》
- 15cm角の折り紙またはきれいな包装紙
- 綿棒(両側が綿のもの)
- キッチンペーパー
- 墨汁
- 2cmφのシール
- ハサミ
- 500円玉2個
- 1円玉2個
- 針と糸

① 着物・帯の準備

- 着物・帯の素材は **15cm角の折り紙** を使います、包装紙を代用しても良い。
着物は折り紙の絵柄を考え、右の図のように折り、図の2ヶ所で切断する。
これで、**人形の胴体が2体と、帯を1枚** 取ることができる。
- 帯は折り紙の 1/4 の幅でよい。
- 着物と帯の絵柄は通常異なる方が良いので、別の絵柄の紙を使用してください。



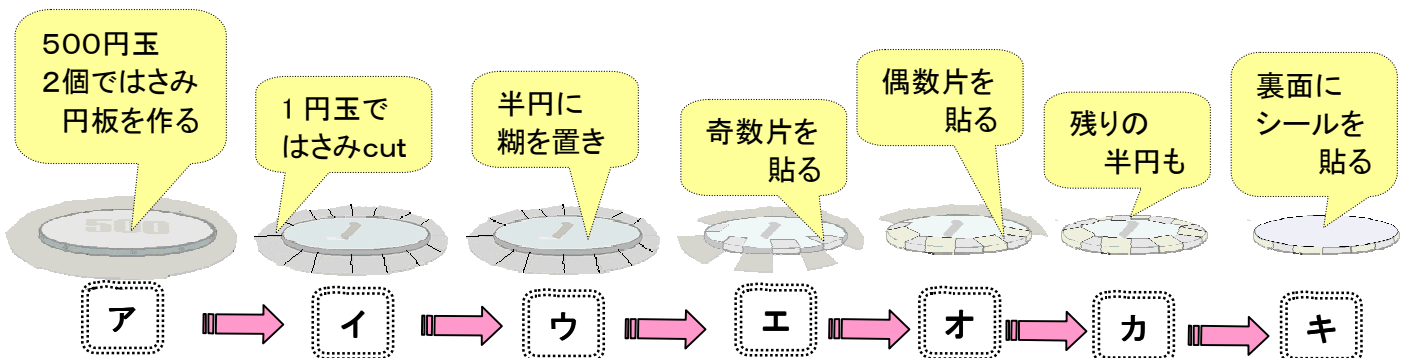
② 人形の首の準備

- 首は頭部と体とをつなぐ大事な部分、紙で作るよりも細く、強度もありしっかりと置いて便利なのが **両側が綿玉になっている綿棒**。よって、ここではこの綿棒を使います。

③ 人形の顔の準備

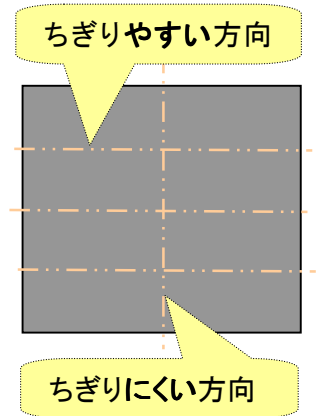
人形の顔として、**約2cm径の円盤**を使います。上部は髪で隠れますが、下部とアゴのあたりは見えるので、それを考えて作ってください。ここでは、1円玉を **キッチンペーパー** で包んで作る方法をご紹介します。

- 500円玉2個の間にキッチンペーパーをはさみ、約3~5mmはみ出るようにして円形にカットします。
- 次に1円玉ではさみ、はみ出た部分を **ハサミ** で12箇所ほど垂直の切れ込みを入れておきます。
- 1円玉に **糊** を薄く置きます。
- 切れ込みの奇数片だけを半円状に貼ります。(エ~カまでは慣れるまで結構難しい作業です)
- 乾いたら、今度は重ねるように偶数片を貼ります。これで半円ができます。
- 同様にして残りの半円を貼れば、顔が完成です。
- 糊が乾いてもはがれないように、裏に **2cmφのシール** を貼ります。
- 顔には目や口は描かず、見る人の想像に任せます。



④ 人形の髪の準備

- 髪用の紙は、キッチンペーパーに墨汁を染み込ませて作ります。
キッチンペーパーは切らずに、一枚のまま色を付け、十分に乾いてから切った方がやりやすいようです。
(墨汁に入っている膠が紙をくっつけるので、小さな紙だとはがし難い。)
- 人形用の大きさに作る時、紙はハサミで切るよりも、手で裂いた方が髪らしい雰囲気の良い紙となります。
- 目安として、1枚のキッチンペーパーで約8体分の髪を作ることができます。

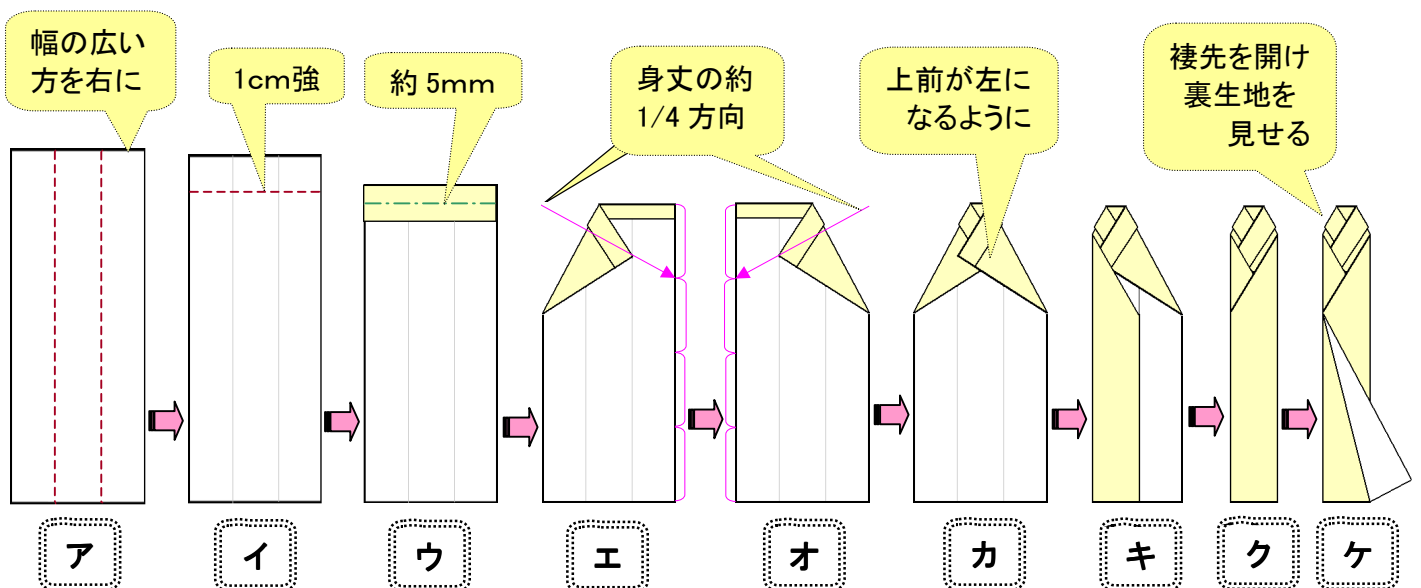


製作

⑤ 人形本体(着物)の製作

次の通り折ると作れますが、**<エ><オ>**については、特に注意をはらって折ってください。

- ア. 縦に3つ折りし、折り目だけつけ、広げる。(よって、姉さま人形の幅は2cm弱となる。)
また、3つ折りしたとき、やや幅の広い方を上前とするため、図では、これが右となるように置く。
- イ. 衿幅を約5mmとする。よって、裏も含め図のとおり上(首の方)から約1cm強を谷折りする。
- ウ. あらためて、衿幅として約5mm幅で山折りする。(うら返して谷折りにすればよい)
- エ. 折り紙の場合、衿が短いので、通常の着物のように前を合わせることができない。それらしく見せるために、衿先を身丈の約1/4の高さの方向に向け、ア.での折り線まで折ることにした。
- 注意** > 折り線まで折るが、折り線を越えてはならない
補足 > 折り線に沿って上下することで衿の首の幅を調整できる。ここで示したのは一応の目安である。
- オ. 同様にして、反対の衿も折る。折り目の最後が<エ>とほぼ同じ高さになる。
- カ. オ.を広げ、ここで左前となるように衿を合わせる。
- キ. 前身頃(下前)を<ア>での折り線に合わせ谷折りで折る。
- ク. 同様に前身頃(上前)を折る。
- ケ. 裾の裏生地を見せるために、上前の裾先を開けるように折る。開ける程度は自由です。
(両裾先を開けてもよい)
- コ. 裏生地を折り紙の裏の色(通常は白)以外とするとき、この部分に別の色紙を貼っても良い。

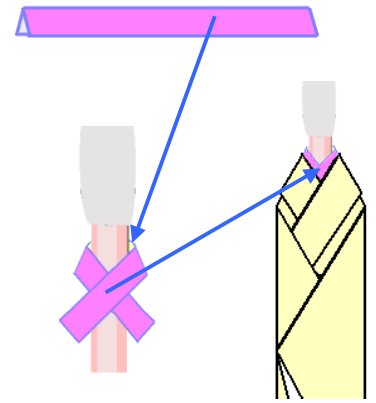


(図は白い面が裏面、色がついているのが表面)

⑥ 半衿の取り付け(首につける)

着物との合う色の紙(約 3cm×1.5cm)を準備し、半衿用に半分に折り、綿棒(両方とも綿のもの)の軸に半衿のように囲み、仮に取り付けます。次いで、紙同士を糊付けし、それから綿棒の軸を首に見立て、適当な上下位置を決め、軸に糊を置き半衿を貼る。

(注: 着物なので、図のように**左手前**になるようにしてください。)



⑦ 人形本体への首の取り付け

⑤で作った人形の衿を開き、⑥で作った綿棒を適当な高さで組み込む。綿棒の綿あたりの着物の内側にボンドをつけ、綿棒と着物とを固定する。

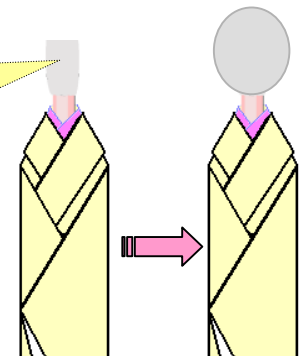
⑧ 人形の顔の取り付け

綿棒の綿の部分プライヤーなどでやや平坦にして、ボンドをつけ、顔の位置決めを行い固定します。

顔がやや固定できたら、裏からもボンドでしっかりと固定します。

(顔は取れやすいので、固定するまで接着剤をよく乾かしてください。喫茶去)

プライヤーで平坦にしてボンドを塗る

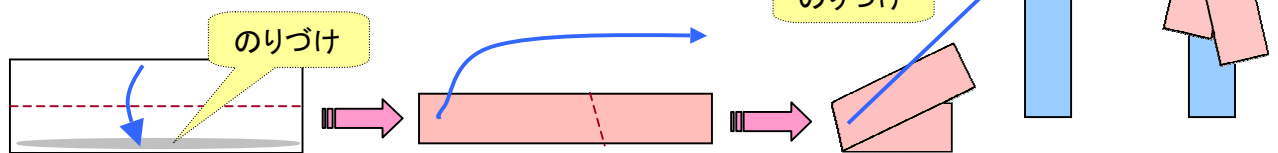


⑨ 姉さん人形の帯の取り付け(15cm×15cmの折り紙の場合)

姉さん人形の帯は、通常髪が長いので、簡略なだらり帯で良い。

《 簡略なだらり帯の折り方 》

- ・ 帯(長さ 15cm)は胴体の部分、だらりの部分に分割する。
- ・ 胴体の部分は横半分に折り、左右対称に前から後に回し後でのり付けする。少し隙間があってもだらり帯でかくせるので支障がない。
- ・ だらりの部分は横半分に折り、のり付け。約 5cmの位置で斜め半分に折り、長い方を上にし、図の通り少しずらし折り目をつける。胴体の部分にだらりの部分にのり付けすれば完成。



でも、それ以外のも考えてみました。着物の絵柄ではなく、好きな帯の締め方を楽しんでください。

《 折り紙でのいろいろな帯の例 : 別紙参照(姉さん人形の帯の作り方) 》



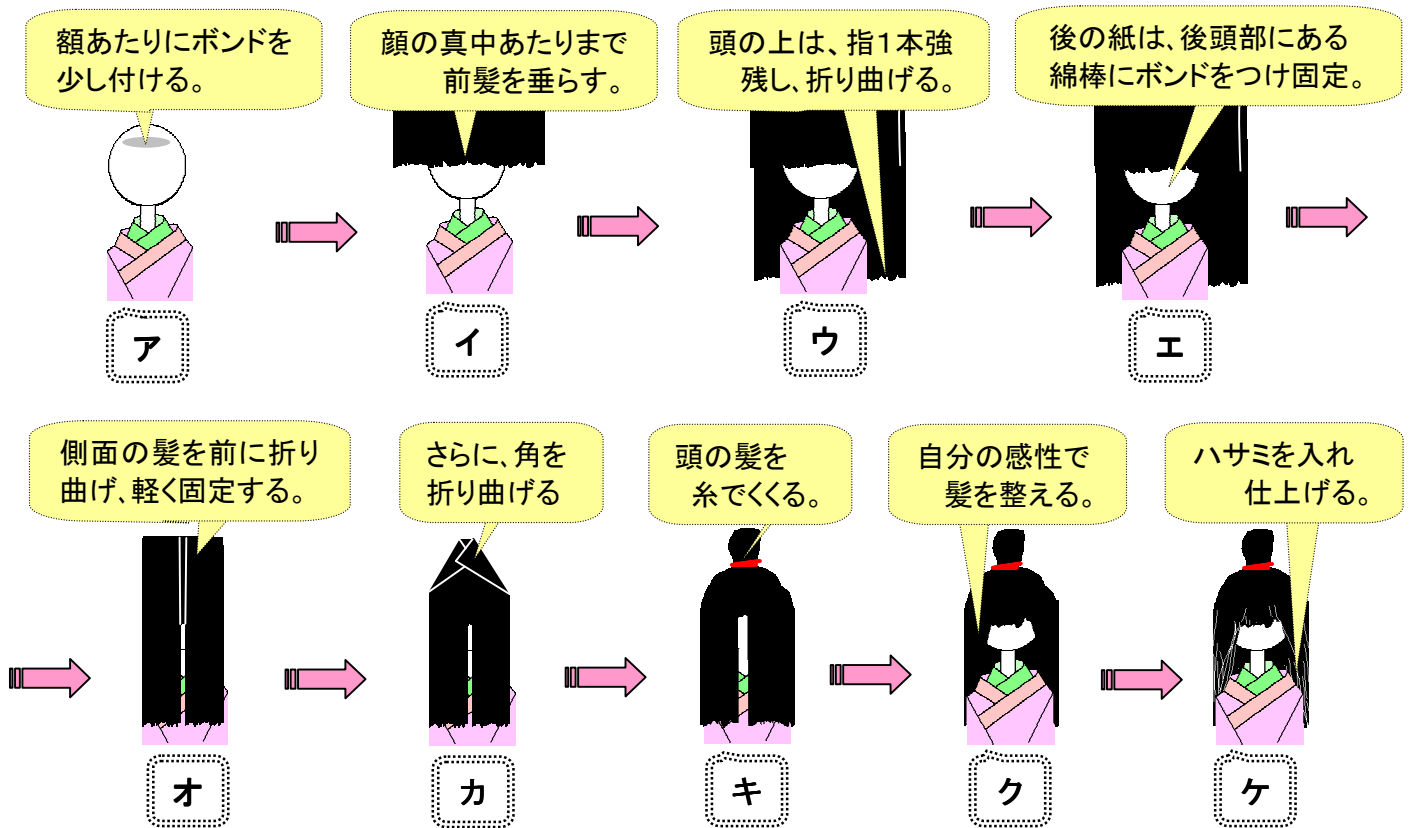
《だらり帯》《サイコロ》《お太鼓》《角出し》《お文庫》《たれ付き貝の口》《貝の口》《立て矢》《ふくら雀》

⑩ 髪の毛の取り付け(完成)

前髪は量が多い方がいろいろと変化が出せるので、そのような作り方にしました。 **顔の紙は破れやすいので、顔は特にやさしく扱ってください。** 帯を見せたい時は、髪を首あたりでくくっても良いし、短髪にしてもよい。いろいろと工夫してください。髪をつけると顔に表情が出てきます。

髪の毛の作り方は次の要領で行います。

- ア. 顔の額あたりにボンドをつける。
- イ. 髪の下線(前髪)を顔の真ん中よりやや下の方にあて、額のボンドで前髪を固定する。
- ウ. 頭の上で髪を結うので、指一本強余裕を持って(キのために)長くし、余った紙を後に曲げる。
- エ. 人形を伏せて置き、顔の裏側の綿棒全体、顔と綿棒の境界線にボンドを置き後ろ髪を固定する。
(この状態でボンドが乾くまでしばらく放置する。この作業で、顔と綿棒とがしっかり固定できる)
- オ. 今度は人形を仰向けに置き、髪の上部にボンドを少量のせ、側面の髪で顔を覆うように折る。
- カ. 図のように、ほぼ頭に沿った線で髪を折る。
- キ. 頭のとっぺん近くで、糸で髪をしっかり留め、それから余った糸で何重か巻き結ぶ。
- ク. 前髪を開き、髪の厚みを感じさせるように折り、顔を出す。(顔の紙は破れやすいので注意!!)
- ケ. ほぼ垂直方向にハサミを入れ、髪の手触りを出す。(ここまできると、各自の感性でやるしかありません)



<< 姉さん人形の髪と顔の例 >>



以上

姉さん人形の帯の作り方



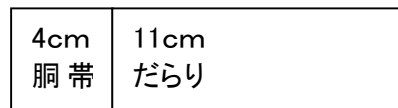
帯に関する接着剤は「瞬間接着剤」の方が良いかも

姉さん人形の帯も変えるのも楽しそう……。そこで、いろいろな帯を15cm×15cmの折り紙で表現することを考えてみました。(図は作成例です)



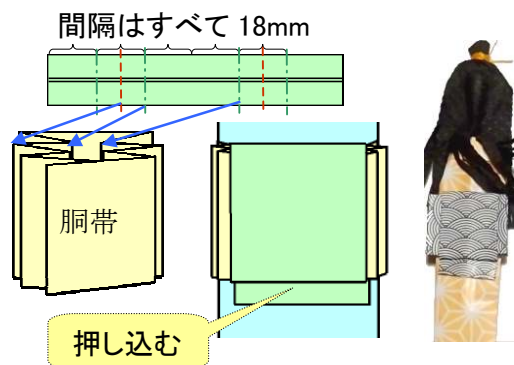
① だらり帯 ★☆☆☆☆

- ・ 帯(長さ15cm)は胸帯の部分、だらりの部分にハサミで分割する。
- ・ 胸帯とだらりができてからバランスをとり、のり付けする。
- ・ 胸帯の部分は両縁を折り、帯幅を約半分とし、前から後に回し、後側で止める。少し隙間はだらり帯でかくせるので大丈夫。
- ・ だらりの部分は、横半分に折り、次いで、少し長さが違うようにして、直角に折り曲げる。この重なりを隠すように、約半分より帯が少しずれるように折る。だらりは胸帯の上に載せる。



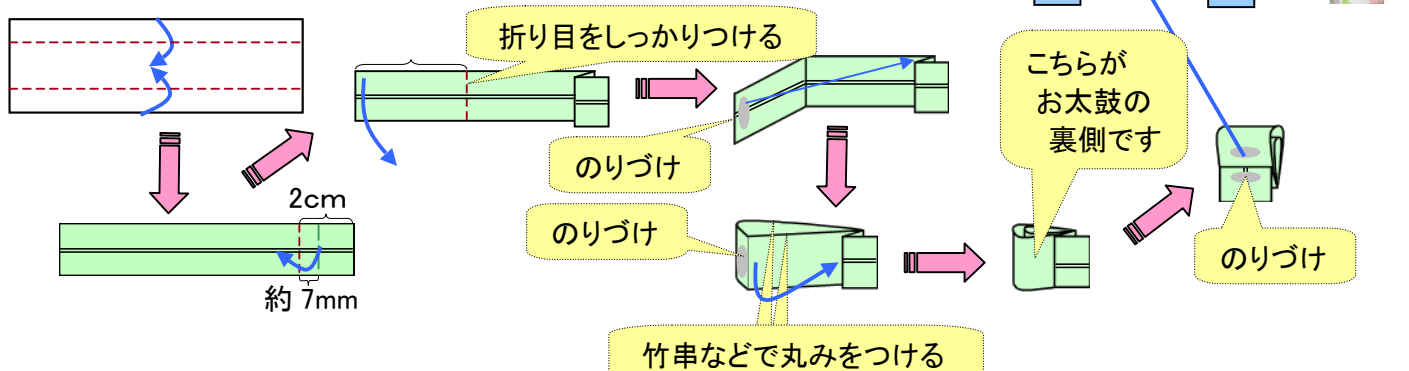
② サイコロ結び ★★☆☆☆

- ・ 帯(長さ15cm)は胸帯の部分、背の部分に2分割する。
- ・ 胸帯の部分は、両縁を折り帯幅を約半分とし、左右対称の折り方で図のように折る。真ん中のヒダは少し高めになる。一番奥の内側の幅は、人形の胸帯の幅である。
- ・ 背の部分も、両縁を折り帯幅を約半分とし、胸帯の部分と直交する形で、上5mmで引っ掛けを作り、3つのヒダをたたみ、残りの部分で、下の引っ掛けとタレを作り完成。



③ お太鼓結び ★★☆☆

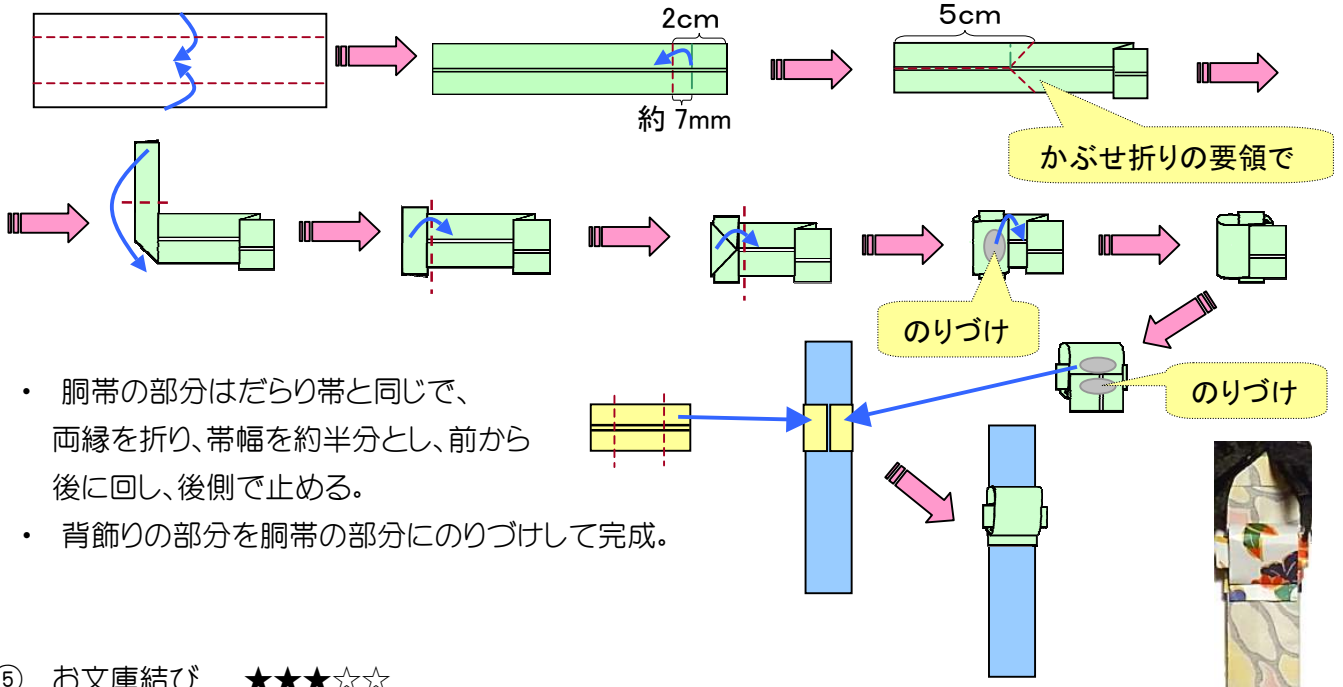
- ・ 帯の分割、胸帯の部分は《だらり帯》と同じ。
- ・ お太鼓の部分は、両側を折り、半分の幅とし、図の通り折っていくと、お太鼓ができる。お太鼓は言葉通り丸みを持たせ、胸帯に乗せれば完成。



④ 角(つの)出し結び ★★★☆☆

4cm 胴帯	11cm 背飾り
-----------	-------------

- ・ 帯(長さ 15cm)は胴帯の部分、背飾りの部分に2分割する。
- ・ 背飾りの部分は、両側を折り、半分の幅とし、一方の端5cmで角を作り、もう片方の端2cmでたれを作る。残りの中央4cmで角を包む袋を作る。
- ・ 袋はお太鼓に似ているが角の位置により時代劇に出てくる女将の帯のような形となる。

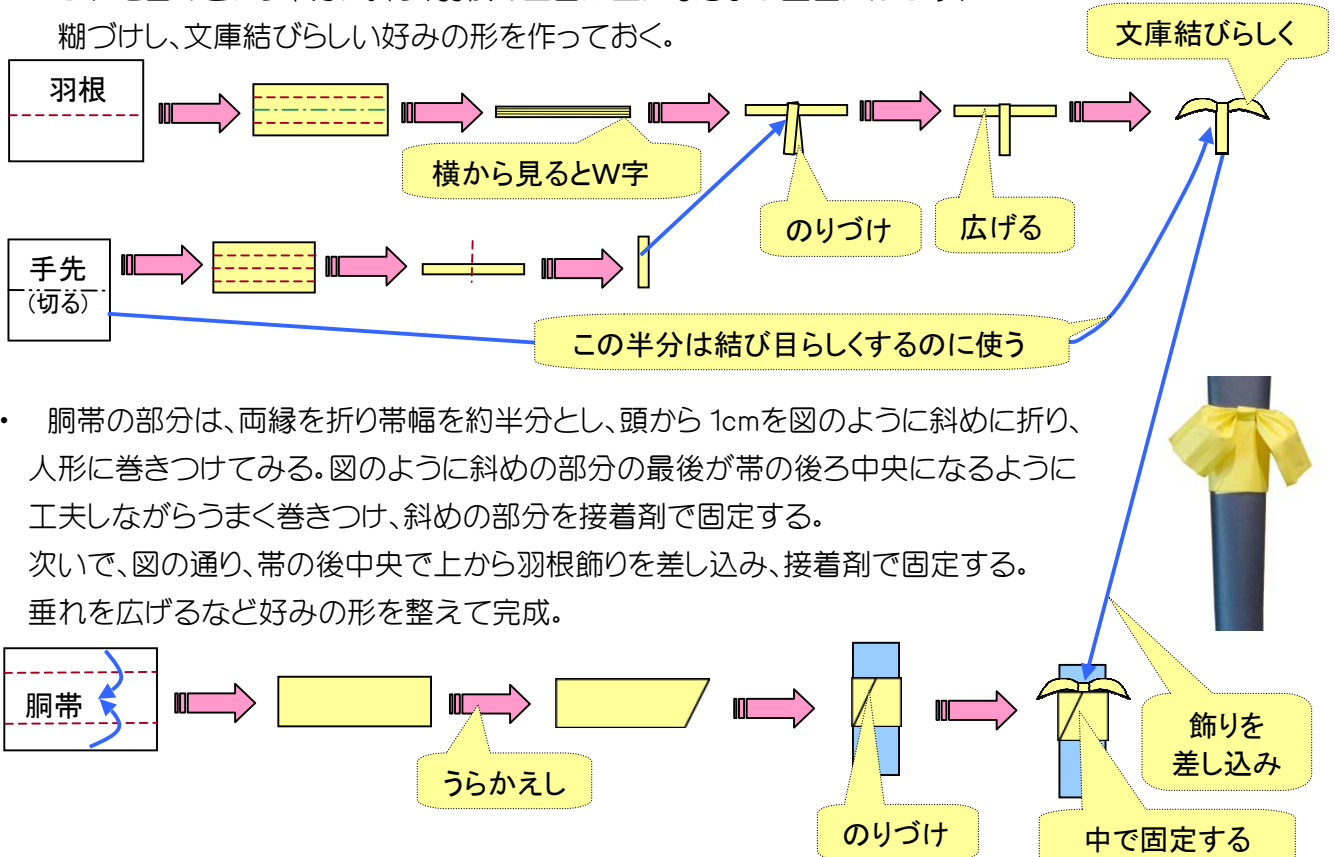


- ・ 胴帯の部分はだり帯と同じで、両縁を折り、帯幅を約半分とし、前から後に回し、後側で止める。
- ・ 背飾りの部分を胴帯の部分にのりづけして完成。

⑤ お文庫結び ★★★☆☆

6cm 胴帯	5cm 羽根	4cm 手先
-----------	-----------	-----------

- ・ 帯(長さ 15cm)は胴帯の部分、羽根の部分、手先きの部分に分割する。
- ・ 羽根の部分は、両面が色柄面となるように横半分に折り、図のように細く折っておく。
- ・ 手先きの部分は、横半分に切断。これを更に 1/4 の細さになるまで折る。これを図のとおり半分に折り、羽根の上面が上になるよう垂直にはさみ、糊づけし、文庫結びらしい好みの形を作っておく。

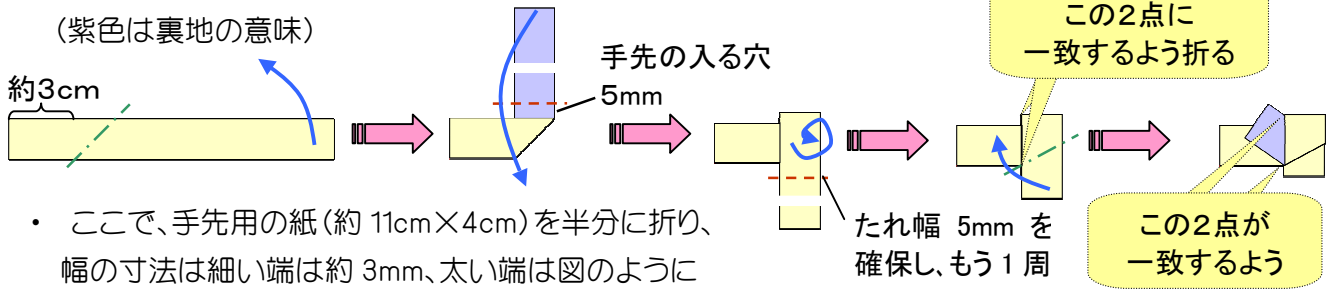


- ・ 胴帯の部分は、両縁を折り帯幅を約半分とし、頭から 1cmを図のように斜めに折り、人形に巻きつけてみる。図のように斜めの部分の最後が帯の後ろ中央になるように工夫しながらうまく巻きつけ、斜めの部分を接着剤で固定する。次いで、図の通り、帯の後ろ中央で上から羽根飾りを差し込み、接着剤で固定する。垂れを広げるなど好みの形を整えて完成。

⑥ 貝ノ口(たれ付き=Y字)結び ★★★☆☆

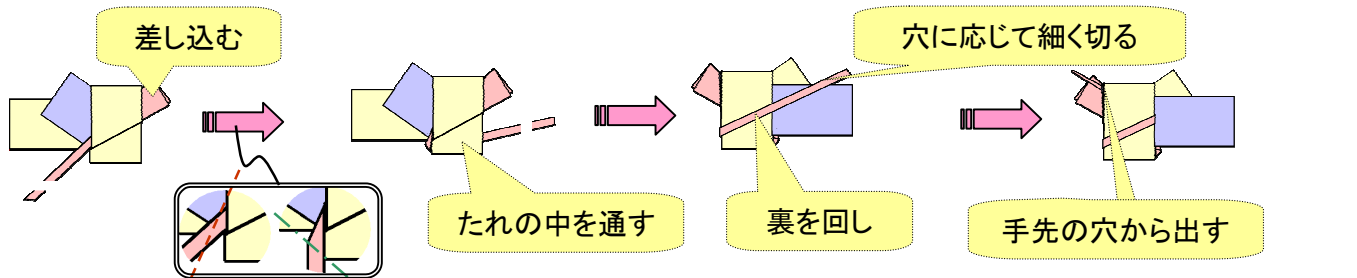
- ・ 帯(長さ 15cm)は胴帯と背中用とで1枚、手先用に1枚準備する。手先用は同じ紙でなくても良い。
- ・ 胴帯と背中は、両縁を折り帯幅を半分にし、図に示す通り折っていく。

(紫色は裏地の意味)

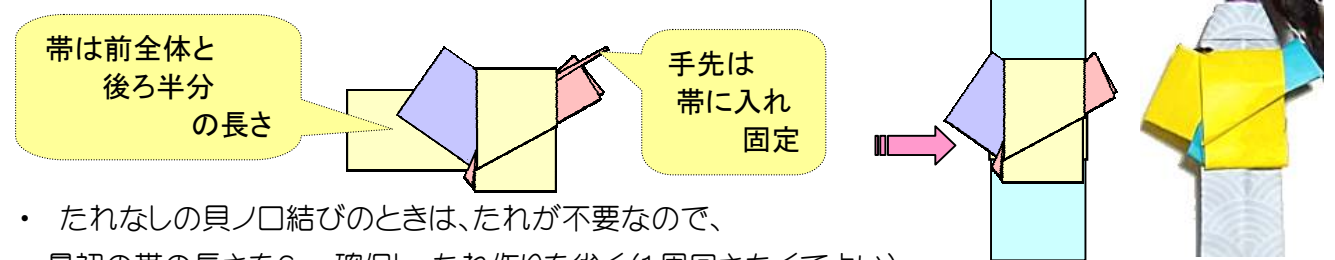


- ・ ここで、手先用の紙(約 11cm×4cm)を半分に折り、幅の寸法は細い端は約 3mm、太い端は図のように使うので、それにちょうど収まる太さに切る。

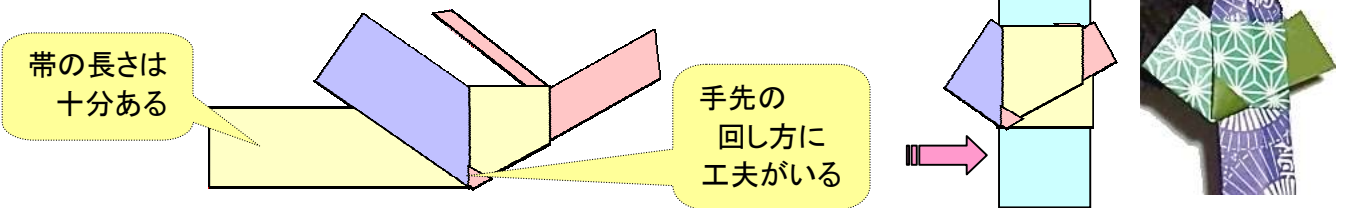
- ・ 手先は本物の帯のような通し方ができないので、図のように差し込んだ後は、たれの中を右まで通し、裏で左に返し、そこから手先の入る穴から出す。



- ・ 背中飾りが付いた帯ができたので、これを人形に取り付ける。



- ・ たれなしの貝ノ口結びのときは、たれが不要なので、最初の帯の長さを6cm確保し、たれ作りを省く(1周回さなくてよい)。折り方はほぼ同じ。ただ、たれが無いので、手先の回し方に工夫がいる。



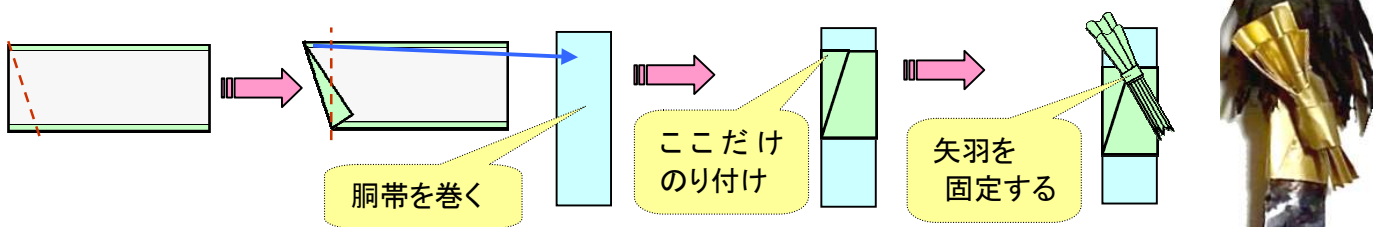
⑦ 立て矢結び★★★★☆

- ・ 帯(長さ 15cm)は矢で1枚、胴帯と手先用で1枚となるので、同じ絵柄のを2枚使います。

- ・ 胴帯用と手先用は丁度半分の長さで切ります。
- ・ 手先はさらに、細長く(7.5cmになるよう)半分に切ります。

胴帯	手先
7.5cm	7.5cm

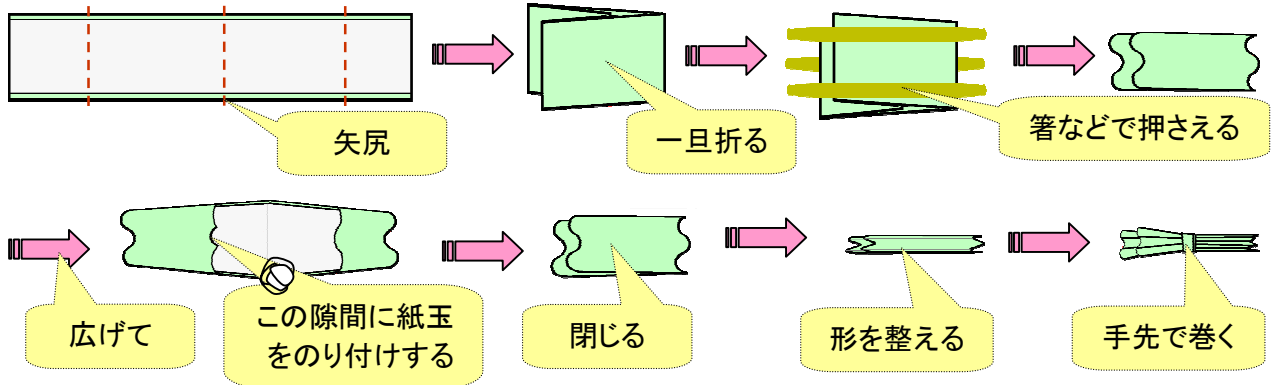
- ・ 立て矢では、帯を広く使うので、胴帯用は図のように両縁を少し内側に曲げ、左端1cmを三角に折り、この最後が帯の後中央でになるよう実際の人形に巻きます。巻いたら三角の部分にのみのり付けしとめます。(何回か試し巻きするとうまく収まります)



- 矢羽根は、幅広で使うので両端をわずかに折るだけで、長さ15cmで約5cmの紙で矢羽根2段を作る。いずれも裏白面が出ないように作りたいので、次の通り折る。

裏	長い矢	短い矢	裏
3cm	5cm	4.5cm	

長い矢と短い矢の間の谷折り部分が矢尻となる。
 両段の矢羽根に隙間を持たせるため、長い矢の中央あたりに紙玉を入れ矢羽根の形を好みに整え、中央あたりで手先用の一本を使い、矢だけを固定する。(ほぼ中央、紙玉あたりが固定場所)。帯に当ててみて矢尻の形も整える。



- 矢羽根の部分ができたなら、矢羽根全体の中央をもう一本の手先を回し、先端を帯に入れる。帯紐が無いと、固定がむずかしいので、接着剤で固定し完成。

⑧ ふくら雀結び ★★★★★

- 帯(長さ 15cm)は胴帯の部分、羽根の部分、手先きの部分に3分割する。
- 胴帯の部分は《単純なだらり帯》と同じに作る。
- 羽根の部分は、文庫結びと同様細く折るまでは同じ。

4cm 胴帯	5cm 羽根	6cm 太鼓
-----------	-----------	-----------

- 次いで、図のように両側を手前にねじるように折っておく。
- 太鼓の部分は、裏が色柄面となるように両側を折り、さらに先が尖るように折る。これを羽根の部分の根元に置き、先端を折り曲げ接着剤で留める。
- 次からが、やや難しいが、更に先端を結び目に似せて絞りながら一回転する。
- タレで太鼓の底のヒダを作るとともに、小さな紙玉を準備し、これを包むように雀の体形を作る。これがうまくできたら、胴帯に接着剤で固定し、羽根をそれらしく広げれば完成。

